

謹賀新年



新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
代表取締役社長

増田 正 二 (帯広信用金庫 会長)



新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、当社の事業運営につきまして格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年の北海道は、公共投資の増加、生産活動の緩やかな持ち直し、国内外からの観光入込客数の増加などから、雇用や所得環境の改善がみられるなど、「全体として景気は回復している」とされていますが、道内信用金庫の主要なお取引先である中小零細企業の多くや、地方における景気回復の実感は乏しく、高齢化、人口減少により地方経済は縮小に向かっており、先行不透明感はむしろ増していると感じています。更には、日本銀行のマイナス金利政策の下、他業態との競争は一段と激化しており、道内信用金庫の経営環境はかつてない程に厳しい状況にあり、株主信用金庫様におかれましてはビジネスモデルの持続可能性の確保に向けて腐心されていることと存じます。

この様な情勢の中、一方では地域活性化の担い手として、地域の稼ぐ力を引き出し経済の好循環を呼び込む為に果たすべき役割や責任も大きく各方面からの期待の声も高まっております。これからも、我々信用金庫が地域金融機関として、今まで以上に地元企業に入り込んで、下支えしていける存在になっていくことが大変重要ではないかと認識しております。

道内の信用金庫では、昨年の1月に江差信用金庫と函館信用金庫が合併して道南うみ街信用金庫が誕生しました。また、この1月1日より、札幌信

用金庫、北海信用金庫、小樽信用金庫の3金庫が同時合併して北海道信用金庫が誕生しました。

道内の信用金庫数も年々減少しておりますが、地域密着型金融機関の役割には変わりはないところです。

昨今、テレビ、新聞ではAI技術による自動運転や顧客対応などが紹介されているように、人工知能を有した技術の進歩は目を見張るものがあります。

今後、我々信用金庫が地域金融機関としての役割を果たしていくためには、これらの技術を上手に取り入れて、信用金庫が持っているデータはもちろんのこといろいろな分野のデータを活用して、地域の産業・企業の活力向上に向けた取り組みについても、行っていかなければならないと考えています。

道内の信用金庫には、幸い手の届くところに(株)北海道しんきん情報サービスがあり、当社をうまく活用していければと存じます。

当社といたしましては、いかに、IT・AI技術の最新情報を研究して信用金庫の経営に役立つサービスをご提案していくかが肝要であると考えております。

また、昨年からはじめた地域活性化支援の一環としての取り組みであるWEBサイトについても、今年はさらに拡張していきたいと考えておりますので、どうか、旧年にも増して一層のご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、この一年が信用金庫ならびに役職員の皆様にとりまして実りあるよい年となりますよう心からお祈り申し上げます。



新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
システム検討委員会 委員長

田原 栄輝 (道南うみ街信用金庫 常務理事)



新年あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては恙なく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、旧北海道信金共同事務センター時代から主に共同システムの円滑な運営に寄与するために活動をしてきた「企画委員会」と「システム専門委員会」は、共同センターの組織統合後は北海道しんきん情報サービス（HSIS）様に運営を継承していただきながら活動を継続して参りましたが、昨年抜本的見直しを図り、4月より両委員会を統合し「システム検討委員会」としてあらたに活動を始めました。

私は、センター統合直後の平成26年企画委員改選時から企画委員会委員を委嘱され微力ながらも委員の末席を汚して参りましたが、図らずも新生委員会の初代委員長を拝命することとなりました。

金融緩和政策の長期化や地域経済の収縮が続く中、金融機関の課題がB/SからP/Lへ移行したのと期を一にするようにフィンテックが金融事業の構造を大きく変化させる兆しが見え、既にメガバンク・地銀業態ではRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の導入等事務効率化への取組みにより、人的資源の再配分や実店舗の業務体制の見直し等が検討されているのは既にご高承の通りです。

これらの構造変化が進展している中、地域に寄り添い、Face to Faceを本旨とする信用金庫がその存在意義をこれまで以上に発揮するためには、「お客様のための非効率」を許容する

ための「お客様に関わりないところの徹底的な効率化」が不可避であり、顧客第一と合理性の両立が喫緊の課題であります。

我が業界においても既に信金中央金庫が中心となってPTが発足する等、今後は新しい取組みに対する機運の高まりが見込まれますが、本委員会はこれらも加え、北海道地区としてベンダー企業や各金庫の情報を共有しながら、経営の諸課題に対し適切かつ効率的な対応を協議していくことがその任務と考えております。

1994年のビル・ゲイツ氏による「銀行機能は必要だが、今ある銀行は必要なくなる」との発言から約四半世紀を経て、金融機関の規模や所在地に関わらず、世界の金融機関やグーグル・アマゾン等のプラットフォーム、フィンテックを駆使する企業達と競争し、時には連携していかなければならない時代がそう遠くない将来に来ることも想像し、副委員長であります帯広信金今木理事、稚内信金橋野理事をはじめ委員各位の力をお借りしながら、今後も本委員会の設立趣旨を忘れず、併せて前身の両委員会が担ってきた役割もしっかりと受け継ぎながら信用金庫業界の発展のために活動して参りたいと思っておりますので、今後とも本委員会活動へのご支援、並びにご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様にとりまして幸多き年になりますこと、また道内各金庫にとりまして輝かしい一年になりますことをご祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
システム検討委員会 副委員長

今 木 啓 智 (帯広信用金庫 常勤理事)
(しんきん共同センター 事業運営委員会 委員)



新年あけましておめでとうございます。
平成 30 年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、昨年新たに誕生した「システム検討委員会」は、従来の企画委員会とシステム専門委員会を併せた形でスタートいたしました。

一言で申しますと、それぞれの委員会の「良い所取り」をしたわけで、経営的目線とシステム担当部門の専門的知識が一つとなって意見をぶつけ合うことで、より一層充実した議論と正しい結論が導き出せるものと思っております。

私は、平成 26 年の企画委員改選時に、前任の当金庫 中村常務理事からバトンタッチして委員をお引き受けしました。

同時に、しんきん共同センター経営対策委員会の委員も引き継ぎまして、当時の稚内信金千葉常務理事とともに共同センターの運営について意見を述べ、議論してまいりました。

その後、共同センターの委員会は、経営対策委員会とシステム評議会が一本化し、「事業運営委員会」として発展的解散を遂げ、現在、同委員会は 13 地区からの代表で構成され、この他全信協、信金中金、しんきん情報システムセンター (SSC) から委員が、また客員として、7 地区情報サービス会社から参加しており、当地区からは HSIS の武田取締役が、私と共に当地区代表として参加しております。

当地区の新生システム検討委員会は、これまで伝統的に受け継いできた「中央 (センター) には、個別金庫の意見ではなく、北海道の総意

で」意見を上げていくという姿勢を続け、単独の意見に偏らないようこの中で十分に議論・検討した結果をもって、共同センターへの開発要望や事業運営委員会での意見等、全国の場へ上げていくという姿勢を貫いております。

この、当地区の良き伝統を守る委員会と、全国の場との橋渡しの役割として、これからも事業運営委員としての任務を遂行していきたいと思っております。

今後も業界発展のために、関係各所の役割を明確に意識し、無駄のない動きができるよう微力ながら尽力してまいりたいと思っております。また、北海道しんきん情報サービスには同委員会の事務局として、今後もその役割を担っていただくよう一層の期待をしております。

最後に、両委員会の委員として、この一年大過なく責務を果たすことができましたことは、各委員の皆様ならびに関係各位のご支援の賜物と存じ、本紙面をお借りして心よりお礼申し上げますとともに、各金庫の益々のご発展をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



新しい年を迎えて

株式会社北海道しんきん情報サービス
代表取締役専務

竹谷 信行



新年あけましておめでとうございます。

昨年を振り返ってみますと、当初計画していた業務については概ね順調に遂行しており、また、収益についても、ここ数年間を眺めましても安定した状況で推移しております。これも偏に株主である信用金庫の皆様の御蔭と深く感謝申し上げます。

昨年は、1月に江差信金さんと函館信金さんが合併され、道南うみ街信用金庫さんが誕生し、また、今年1月1日には、札幌信金さん、北海信金さん、小樽信金さんが合併され北海道信用金庫さんが誕生しました。

この合併に際しましては、私どもで受託している、自動振替業務をはじめ、自動機監視、カード発行などの業務について、ご担当者と綿密な打ち合わせを行い、テストを実施し無事稼働することができました。ご関係の皆様におかれましては多大なるご尽力を賜りましたこと、この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

また、昨年は、大阪で構築した共同利用型相続業務支援システムを北海道の金庫でも利用できるようにいたしました。これにより安価な利用料を実現することができ、昨年12月から北門信金さんが利用を開始されました。更に、本年2月より伊達信金さん、4月より日高信金さんが利用を予定されています。これからも更なる「信用金庫のシステムコストの低廉化」を目指し、北海道の枠を超えて各地区の情報会社と連携を強くして相互に利用できるシステム提供を模索していきたいと思っております。

今、各金庫さんの経営環境を眺めてみると、地域経済の疲弊化、低金利政策の継続により収益を生むことが大変難しい状況にあると認識して

おります。そんな中、大きな負担になるシステムコストをいかに押さえていけるかは、各地区の情報会社の取り組みだけでは限界がありますので、信用金庫業界でシステムを提供しているしんきん共同センター、SSCも交えてお互いが連携してお互いの組織の強みを発揮した形で、役割分担していく事が、さらなるシステムコストの低廉化に繋がっていくのではないのでしょうか。

今やAI技術も相当進化してきており、いかにこれらの技術を金庫の経営に役立てるかということについても、これら信用金庫業界のシステム提供元が連携して英知を結集させ、研究、検討して行くことが不可欠だと考えております。

この他に、各金庫で取り組んでおられます地域活性化を支援することで昨年から進めてまいりました、Webサイト「北海道すぐれもん Shopping!!」については、伊達信金さんにご協力いただき、8月に4店舗でスタートいたしました。その後、このサイトを充実するために、全金庫を対象に10月に導入説明会を開催したところ、2金庫が年度内、7金庫が今年中の導入のご要望をいただきましたので、個別金庫への詳細説明を実施しているところです。また、先日は東京都信用金庫協会の業務研究会の方々に本サイトの取り組みを視察いただき、他の地区でも関心を持たれているということを感じました。よりこのサイトを使いやすくなるようシステム面の改善も進めておりますので、本サイトのご利用をこれからもご検討賜りますようよろしくお願いいたします。

結びになりますが、今年は、皆様にとりまして、更なる飛躍、発展の年になりますよう心からご祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。